

「共に生きるための」種まき

兵庫県神戸市兵庫区 特定非営利活動法人 One self

【国際交流シェアハウスやどかり】

〈施設概要〉

神戸で日本語を学習する長期・短期留学生に安心して安全な生活をしてもらうことを目的に2015年7月にオープンした。約800㎡の大型シェアハウスで18部屋・定員48名である。

またシェアハウスとしては珍しい旅館業法簡易宿舍業を取得している。そのため長期滞在の留学生や技能実習生の入居のみならず、1泊からの観光客も滞在ができる。

やどかりには日本語教室が併設されており、滞在者はいつでも学習ルームで日本語学習をすることができる。

〈社会的背景〉

① 住環境のトラブル

留学生や技能実習生が住居を借りる際に、保証人が見つからないという問題が多かった。さらにベトナム等の非漢字圏留学生が増加すると、賃貸契約書や重要事項説明書が漢字で読めないため、何が書いてあるのかよくわからないままサインをしたり、窓も換気口も新しい納屋を住居だと不動産会社から説明を受けて借りているケースもあった。一方ですでに留学生が契約し生活をしているアパートへ留学生の同居者を紹介し、一人増えるたびに契約書も交わさずに礼金・敷金を再度請求する家主がいたりと悪質なケースも見られた。

② 留学生が地域交流できる場がない

留学生の多くは日本語学校とアルバイト先



入居者の誕生日や試験合格時のパーティー





元旅館を借りて運営しているシェアハウス

の往復のみという場合が多く、ほとんどの学生が地域住民と接する機会がなかった。また自身のルーツを強みにできる環境がほとんどない。特に神戸市兵庫区は日本人人口が減少しているのに対し留学生人口が増加しており、結果的に人口減になっていないという状況にある。なかでもベトナム人留学生の増加は著しく、区内在住者が2000人を超えている。これは東京都新宿区に住むベトナム人とはほぼ同じである。そういった中で地域からはごみ問題や騒音トラブル、放置自転車の問題などが多く区役所に寄せられる状態だった。

〈具体的な取り組み〉

① 住環境の整備

国際交流シェアハウスやどかりでは各居室

の他に、多目的ルームと学習室を設けており、ライフスタイルに合わせてシェアハウス内での居場所が変えられるようになってきている。また学習室では毎週日曜日に日本語教師による日本語教室を開講しており、宿題のチェックや授業のフォローアップ、日本語能力試験対策や面接指導等を行っている。近年はそういった取り組みが地域の企業等にも知られるようになり、企業で働く外国人システムエンジニアが日本語教室に参加したり、外国籍の高校生が進学や就職のための面接指導や小論文対策を希望するケースもある。

② 日本で生活するための知識

国際交流シェアハウスやどかりでは、来日間もない留学生や技能実習生を対象に神戸市のごみ捨てルールを指導している。また防災知識を楽しく学べるイベント「防災運動会」を定期的に開催し、ハザードマップの見方や消火器の使い方等を指導している。

③ 留学生の健康管理

母国で衛生指導を経験したことがない留学生も多いことから、神戸市内の看護学科のある大学と連携し「しんかいち国際保健室」を週に1回開催している。英語等でも問診ができるようにしており、病院に行く前に気軽に健康相談できる場としている。栄養学、感染症予防、性教育をテーマとしたワークショップや講義を行うこともある。また生理痛緩和



避難訓練と消火器の使い方は新規入居者に必ず体験してもらう



日曜日開催の日本語教室。区内の企業からも参加する外国人SE



感染症対策や栄養バランスについて技能実習生を対象にしたワークショップ

ヨガや足つばマッサージ、虫歯チェック、こころの相談等を無料で行っている。

④ 留学生の地域交流

ガールスカウトや自治会、婦人会とクリートン作戦等を通して関係を構築し、自治会行事や地域のイベントに留学生が参加できるよう取り組んだ。婦人会と児童館主催のカレーパーティに留学生を招待してもらった。その際には留学生から母国に関するクイズをしたり歌を歌ったりと世代を問わずに楽しめるプログラムを用意した。

特に自治会行事は近年高齢化していることもあり、このまま若い人が参加してくれなければお餅つき大会が継続できるかどうかかわからないという声もあった。そこで留学生をサ



区内のガールスカウトと技能実習生の交流会

ポートスタッフとして引率し、地域のお餅つき大会にも参加した。

⑤ 自身のルーツを強みにする活動

留学生の多くは日本での生活でなかなか母国について話したり、母国料理を楽しんでもらえる機会がない。そこで国際交流シェアハウスやどかりでは定期的に留学生が母国の文化を紹介するイベントを実施している。国によって参加者の世代や属性も違い、関心の高さやその国に対する親近感の有無等がわかる。

また旅館業法を取得していることから、観光客が滞在することもある。その際は留学生がスタッフとなり近隣施設の紹介や神戸の紹介をしている。日本人スタッフではなく留学生がスタッフとして活動することで自身の



担い手が減っている自治会のお餅つき大会に留学生が参加

言語を生かすことができる。特に2019年ワールドカップラグビーでは兵庫区にある「ノエビアスタジアム神戸」で試合があったことから、アメリカやロシア等、多くのサポーターがシェアハウスに滞在した。この際もスタジアムまでの行き方や飲食ができる場所等を留学生スタッフが案内し、普段日本語学校では交流できない国の方々と話せることにも喜んでいった。

⑥ 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う留学生・技能実習生支援

アルバイトの解雇が徐々に始まり週に3回から4回くらいはアルバイトが2週間に1回に減り、日本の子はシフトに入らなければならない状況

況に陥る子が多く、食費を削り、1日1食にする学生が増えてきた。

中には進学が決まっていたが、アルバイトが少なくなり学費が払えずに留学ビザが取り消され、在留資格が「短期滞在」となり就労が認められないというケースがでた。最終的に野宿に追い込まれ、当シェアハウスで支援をすることになった留学生もいる。生活のサポートとして食料品提供を行い、ヒアリングをしながら、その後、定期的に状況を確認している。さらに困っている留学生にはシェアハウスの空き部屋を無償で提供している。

⑦地域の居場所へ

2021年に入り、国際交流シェアハウス



留学生が母国文化の紹介を行ったイベントの様子

やどかりでは子ども食堂の場所としても活動を始めている。

「こどもワクワク食堂」がこれまで使用してきた教会が施設老朽化で使用できなくなったため、移転先を探していた。もともと食堂には外国にルーツを持つ児童も多く参加していたことから、兵庫図書館の館長が同シェアハウスへの移転を提案し、1月から活動を再開させた。

当団体も留学生への食料品提供を行っていたことから、緊急事態宣言が出ていたとしても「食べることは生きることである」という双方の理念が一致し、コロナ禍ではあるが活動を続けている。また留学生が配膳スタッフとして参加することもあり、国籍を問わず多様性を認める居場所として長く活動を続けていきたい。

⑧関係各所との連携

2020年春頃には学校を卒業したが飛行機がないため帰国できない留学生が増加した。そういった留学生は在留資格が「留学」から「短期滞在」になってしまったことで、アルバイトから切り離される状況になった。コロナ禍で帰国できない上、日本で生活するための生活費を捻出するアルバイトもできなくなったことで生活困窮する留学生が増加した。入管に「留学期間を終えて帰国できない留学生に対しては短期滞在ビザではなく、ア

ルバイトができる特定活動へのビザに切り替えてほしい」と現場の声を届けた。

また、神戸市の国際課等の行政機関とも情報を共有した。国際課からは「留学生に対してどのような支援があったらいいか」と相談があり、区役所からは、そうした支援が必要な留学生が何人くらいいるのかなど、詳しい情報をお互いに交換していた。

後に神戸市が「新型コロナウイルス感染症対策外国人留学生等支援事業」として留学生が六甲山周辺の清掃活動等に参加した場合に活動費を支給したり、留学生の生活支援を行うNPOに活動助成が行われた。当団体も同助成を受けて留学生に食料品の無償提供を実施した。

さらに、兵庫区社会福祉協議会からも、留学生が貸付の相談や申し込みが増加し、言語的な問題で貸付申請が大きな負担となっているという声があり、当団体のスタッフが週に2回、窓口業務をサポートして、留学生が申し込みに来た際に、生活支援事業へつなげた。その際の連携が現在も続いており、今年度から「緑芸プロジェクト」として留学生と引きこもりの方、障がいをお持ちの方々と一緒に畑作業を通して交流する事業もスタートした。

(特定非営利活動法人 Oneseif

理事長 中野みゆき)